

介護福祉科 実務経験のある教員による授業科目

氏名	科目名	履修学年	時間数	実務経験と授業科目との関連性
小野 千晴	介護の基本(介護概論Ⅰ)	1年	60時間	障害者・高齢者介護の現場で介護に従事した実務経験のある教員が、意義や専門性、職業倫理、介護の基本姿勢など、介護福祉士としての基礎となる知識や考え方について教授する科目である。
長屋 敦志	介護の基本(介護概論Ⅱ)	2年	30時間	障害者・高齢者介護の現場で介護福祉士として、また管理者として実務経験のある教員が、介護現場のチームケアや多職種連携、地域連携、リスクマネジメントなど、チームのリーダーとしての役割を担う上で必要な知識や方法について教授する科目である。
長屋 敦志 柳沼 輝己	介護過程Ⅰ	1年	75時間	障害者・高齢者介護の現場で介護に従事した実務経験のある教員が、根拠に基づいた介護実践につなげるための客観的で科学的な介護のプロセスについて教授し、実践力を身につけるための科目である。
	合計時間数		165時間	

こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース 実務経験のある教員による授業科目

氏名	科目名	履修学年	時間数	実務経験と授業科目との関連性
藤田 留美	保育原理	1年	30時間	保育士としての実務経験のある教員が、保育の基本的な考え方や施設としての幼児教育の考え方、保育の現状と課題等について教授する科目である。
谷内 智美	乳幼児保育Ⅰ	1年	30時間	保育士としての実務経験のある教員が、乳幼児保育の理念と役割、3歳未満時の発達と保育のあり方、関係機関との連携の意義等について教授する科目である。
	保育制作Ⅰ	1年	30時間	保育士としての実務経験のある教員が、保育の中で使われる教材やその制作のために必要な基本的知識や技術を教授する科目である。
道上 里奈	乳幼児保育Ⅰ	2年	15時間	保育士としての実務経験のある教員が、子どもが「人」として生きていくうえで基本となる心情・意欲・態度の基礎を教授し、人格を形成していく大切な時期を保育する大人であることの重要性の理解・保育者としての人間性と専門性を身につけるための科目である。
	保育制作Ⅱ	2年	15時間	保育士としての実務経験のある教員が、制作活動の計画、教材研究、実践を通して、保育の現場で必要とされる創作活動・表現活動に必要な知識を教授し、保育者としての指導力を身につけるための科目である。
高橋 和也	こどもと体育	2年	15時間	幼稚園教諭としての実務経験のある教員が、乳幼児時期の運動遊びが発達にどのような影響を与えるのかを理解し、運動遊びの具体的な内容や指導方法を教授し、実践することから、指導力を身につけるための科目である。
長谷あゆみ	こども家庭支援論	2年	30時間	保育士としての実務経験のある教員が、こどもの安心で安全な日や健やかな成長発達のための子育て家庭への支援についてを教授し、「こどもの最善の利益」は何なのかを考える力を身に付ける科目である。
	合計時間数		165時間	

こども福祉科 保育士コース 実務経験のある教員による授業科目

氏名	科目名	履修学年	時間数	実務経験と授業科目との関連性
藤田 留美	保育原理	1年	30時間	保育士としての実務経験のある教員が、保育の基本的な考え方や施設としての幼児教育の考え方、保育の現状と課題等について教授する科目である。
谷内 智美	乳幼児保育Ⅰ	1年	30時間	保育士としての実務経験のある教員が、乳幼児保育の理念と役割、3歳未満時の発達と保育のあり方、関係機関との連携の意義等について教授する科目である。
	保育制作Ⅰ	1年	30時間	保育士としての実務経験のある教員が、保育の中で使われる教材やその制作のために必要な基本的知識や技術を教授する科目である。
道上 里奈	乳幼児保育Ⅰ	2年	15時間	保育士としての実務経験のある教員が、子どもが「人」として生きていくうえで基本となる心情・意欲・態度の基礎を教授し、人格を形成していく大切な時期を保育する大人であることの重要性の理解・保育者としての人間性と専門性を身につけるための科目である。
	保育制作Ⅱ	2年	15時間	保育士としての実務経験のある教員が、制作活動の計画、教材研究、実践を通して、保育の現場で必要とされる創作活動・表現活動に必要な知識を教授し、保育者としての指導力を身につけるための科目である。
高橋 和也	こどもと体育	2年	15時間	幼稚園教諭としての実務経験のある教員が、乳幼児時期の運動遊びが発達にどのような影響を与えるのかを理解し、運動遊びの具体的な内容や指導方法を教授し、実践することから、指導力を身につけるための科目である。
長谷あゆみ	こども家庭支援論	2年	30時間	保育士としての実務経験のある教員が、こどもの安心で安全な日や健やかな成長発達のための子育て家庭への支援についてを教授し、「こどもの最善の利益」は何なのかを考える力を身に付ける科目である。
	合計時間数		165時間	